

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

京都産業大学全学共通カリキュラム委員会	
(責任者名) 在間 敬子	(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全学部に受講機会を提供するため、令和5年度より、全学共通の「共通教育科目」に応用基礎レベルの科目として「データ・AI活用基礎(講義科目、2年次生以上、定員1,000名)」、「データ・AI活用実践(初級)(演習科目、2年次以上、定員50名)」、「データ・AI活用実践(上級)(演習科目、2年次以上、定員50名)」を開講している。プログラム履修者数は令和5年度年度 2325人、令和6年度3113名である。</p> <p>今年度の各科目の履修者数・合格率は、「データ・AI活用基礎(講義科目)」3245名・80%、「データ・AI活用実践(初級)(演習科目)」43名72%、「データ・AI活用実践(上級)(演習科目)」144名・86%であった。</p>
学修成果	<p>「データ・AI活用基礎」の各回の小テスト得点(6点満点)の平均値は、春学期は 5.1, 4.5, 4.5, 1.9, 4.7, 4.1, 2.8, 3.3, 4.7, 4.8, 5., 4.6, 4.7, 4.8, 4.6(全平均 4.3)秋学期は 5.1, 4.7, 4.4, 2.1, 4.4, 3.8, 3.7, 3.1, 4.5, 4.8, 4.8, 4.4, 4.7, 4.6, 4.5(全平均 4.2)であり、学習の成果は出ていると評価できる。また、各回の質問フォーラムの質問数(学生からの回答数)は、春学期は 106(25), 59(22), 37(5), 14(2), 13(4), 15(1), 14(6), 15(1), 13(4), 24(4), 24(9), 12(2), 12(4), 23(2), 29(11)総数 410(102)、秋学期は 59(15), 33(11), 16(5), 19(3), 6(2), 11(3), 18(8), 3(3), 16(1), 22(4), 18(4), 17(3), 18(5), 21(8), 15(11)総数 292(86)であり、自主的・積極的・双方向的な学習も出来ていると評価できる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学では、全学期末に学生による自分の成長の実感に関する自己評価を行い、FDやカリキュラム改善に活用することを目的とした調査を、全学的に実施している。</p> <p>本調査における「データ・AIと活用基礎(講義科目)」の「授業の到達目標」の達成評価は、(達成できた。概ね達成できた。)について春学期:95%、秋学期:95%であり、本科目の到達目標を達成できたといえる。自由記述の内容により現代のスキルとして必要なAIについて理解できたという声もあったが、専門分野以外の学生からは、もう少し詳細に説明して欲しいという意見も寄せられた。</p> <p>「データ・AI活用実践(初級)」では、「授業の到達目標」の達成評価は、(達成できた。概ね達成できた。)について秋学期:50%であった。自由記述では、文系学生にとっては、厳しいスケジュールであったので、サンプルプログラムを配布しながら進めて欲しいという意見が寄せられた。</p> <p>「データ・AI活用実践(上級)」では、「授業の到達目標」の達成評価は、(達成できた。概ね達成できた。)について秋学期:100%であった。</p> <p>応用基礎レベルの履修者数のうち、文系学部生が91%を占めているため、サポート体制の強化等やコンテンツについて、担当者会議にて改善・検討を行っていく。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する情報を、新入生や在学生向けのHPや大学案内に広く掲載し、積極的に発信している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本学では、リテラシーレベル「データ・AIと社会」は毎年約2,000名の履修者数がある。このリテラシーレベルに続いて、実践的な能力を育成するために、応用基礎レベル3科目を開講した。</p> <p>「データ・AI活用基礎」は講義科目、オンデマンド型授業で、2年次以上の学生対象で、1,000名の定員がある。履修希望者が定員を超えた場合も、質を保ちながら、受け入れた。春学期:1695名、秋学期:1544名</p> <p>文系学部所属する学生が全体の88%を占めているため、文系学部所属する学生が抵抗なく履修できるよう、文系学部と生命科学部の学生に対して、「データ・AI活用実践(初級)」を開講。その結果、43名(文系42名)の学生が履修。「データ・AI活用実践(上級)」は理学部の必修科目であることもあり、144名の履修者(うち138名が理学部)がいる。</p> <p>リテラシーレベルの「データ・AIと社会」と、応用基礎レベルの「データ・AI活用基礎」に加え、初級または上級の「データ・AI活用実践」のいずれか1科目、計3科目を修得した学生には、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修証明として、オープンバッジ(デジタル証明書)を交付することで、履修・学習の意欲を高める取り組みを行っている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>当該プログラムは令和5(2023)年度から開始したため、プログラムを修了した学生の進路や活躍状況、企業等の評価については、今後、進路・就職支援センター等の他部署とも連携し、企業等の評価を把握できる体制を構築する。また、本学では、継続的に「卒業生アンケート」を実施し、卒業生の状況を把握している。今後この「卒業生アンケート」の中に当該プログラムに関するアンケート項目を含めることにより、修了者の状況を把握できる体制を構築する。</p> <p>本プログラムを履修している学生が、キャリア教育センターが開講するインターンシップ科目などを履修している場合、インターンシップを行った段階で、インターンシップ先企業から当該プログラムに対する意見を得られる体制を整えていく。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「データ・AI活用基礎」の学習成果実感調査における①「この講義で学びの面白さを感じた」の達成評価は、(強く思う。そう思う。)について春学期:73%、秋学期78%であった。また、②「この講義を受講したことで、自分の専門外の学問分野について理解が深まった」の達成評価は(強く思う。そう思う。)について春学期:70%、秋学期:70%であり、データサイエンスや統計になじみの少ない学部においても、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさや意義が感じられたことがわかる。</p> <p>一方、「データ・AI活用実践(初級)(演習科目)」では、①の達成評価は、(強く思う。そう思う。)秋学期:25%、(どちらともいえない。)75%であった。②の達成評価は(強く思う。そう思う。)秋学期:50%、(どちらともいえない。)50%であり、文系学部生向けの授業内容となっているが、受講生の機器操作慣れの幅が広いことが評価に影響していると考えられる。「データ・AI活用実践(上級)」では、①の達成評価は(強く思う。そう思う。)秋学期75%、(どちらともいえない。)25%であった。②の達成評価は(強く思う。そう思う。)秋学期:75%であった。このような結果から、演習科目においては、学生が実際に手を動かして問題を解決することやスキルを身に付けることが、学びの満足度に大きく影響すると示唆される。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>アンケートから意見を分析し、担当者会議で振り返り、文系理系を問わず、より分かりやすい授業内容となるよう、次年度に向けた改善を行っている。</p> <p>小テストの得点平均値などを参考に、理解度の低いあるいは高い授業回の内容やその難易度を次年度に向けて改善している。</p>